

調剤資材供給不安に関する緊急実態調査の集計結果

回答1278件から、業務影響・不足資材・現場負荷・将来懸念を整理

集計報告 | 2026年6月26日

調査概要とエグゼクティブサマリー

影響あり94.8%で、現場の供給不安は広範囲に及ぶ

1,278件

回答総数

構成比は回答総数を分母に算出

40.5%

既に業務に支障

517件

54.3%

少し影響あり

694件

94.8%

影響あり合計

支障あり＋少し影響あり

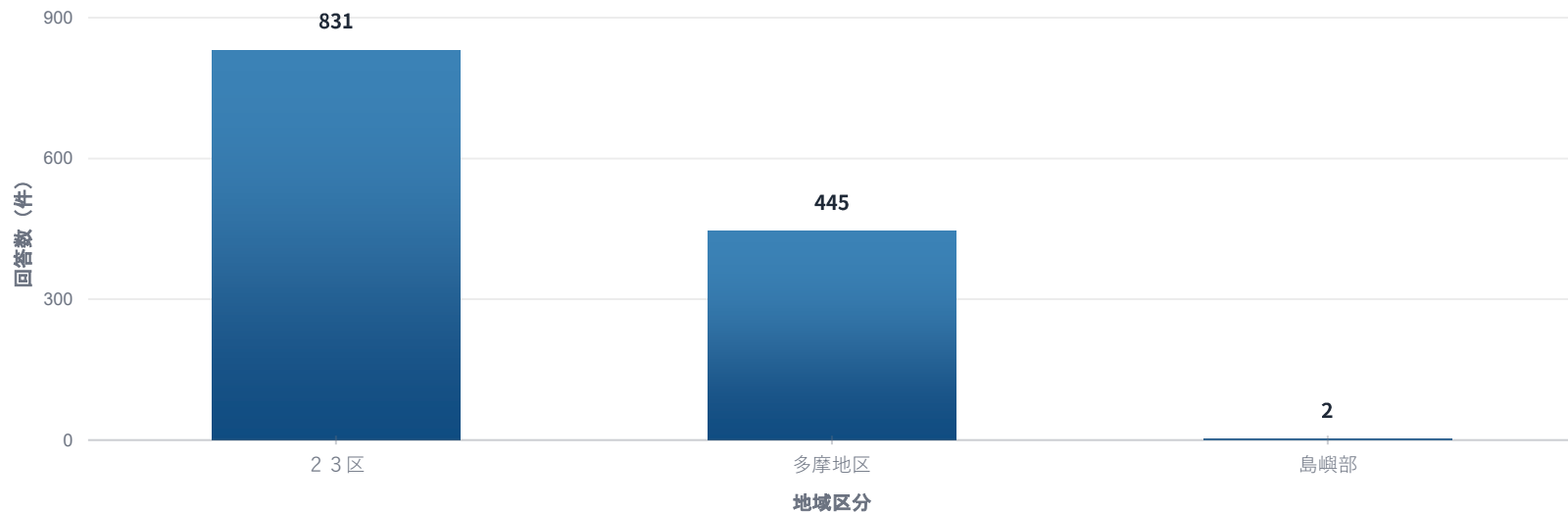
- ・ 不足資材、現場事例、将来懸念が同時に進行している。
- ・ 「全く影響なし」は5.2%にとどまり、局所的問題ではない。
- ・ 内部業務負荷と患者対応負荷の双方で影響が広がる。

報告上の焦点

安定供給・公平配分・現場運用支援を
一体で検討する段階

地域別の回答数

回答は23区が約3分の2、多摩地区が約3分の1



注：島嶼部は2件（0.2%）。

Source: 調剤資材供給不安に関する緊急実態調査（回答1278件）

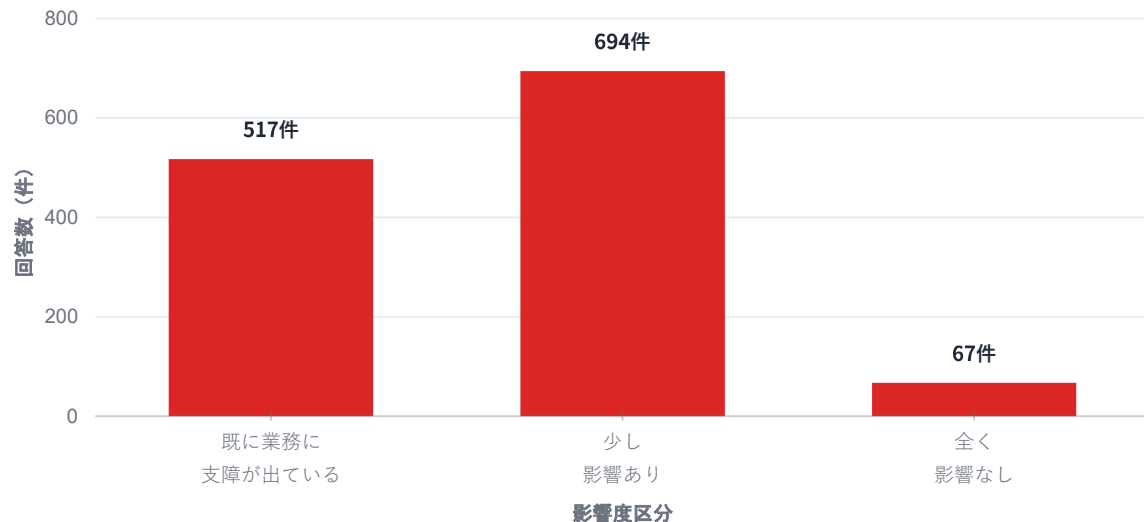
業務への影響度

「既に支障」と「少し影響あり」が大半を占める

94.8%

影響あり合計

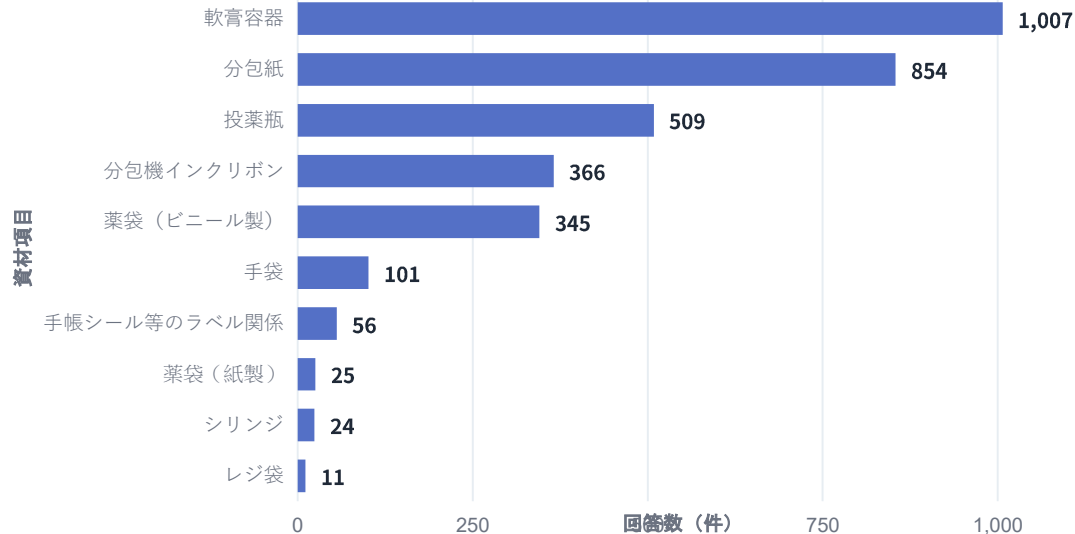
回答の大半が、既に業務に支障または少し影響ありと回答。



Source: 調剤資材供給不安に関する緊急実態調査（回答1278件）

不足資材トップ10

軟膏容器と分包紙が特に深刻



Source: 調剤資材供給不安に関する緊急実態調査（複数回答）

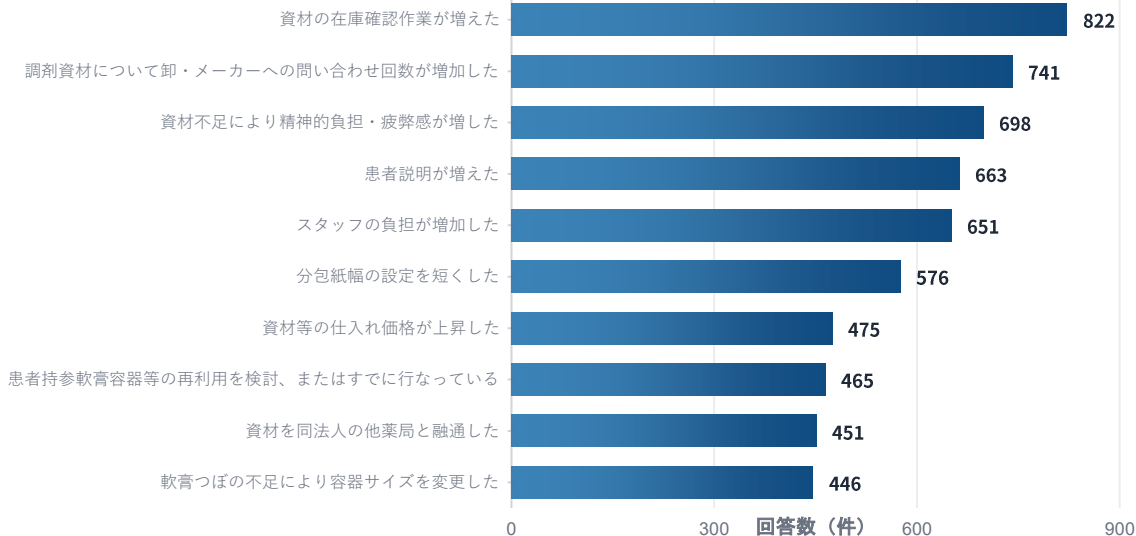
78.8%

軟膏容器の不足回答率

上位5項目はいずれも調剤・投薬時に日常的に使用する基礎資材であり、複数資材不足への同時対応が必要な状況。

実際に発生している現場事例

在庫確認・問い合わせ・疲弊・患者説明が上位



Source: 调剂药材供給不安に関する緊急実態調査（複数回答）

注目すべき補足事例

Top10外にも、現場の適応と深刻な負担の両面が表れている。

他法人間での药材融通

90件（7.0%）

地域で支え合う協力的な対応。地域医薬品提供体制強化事業の効果を示す可能性がある。

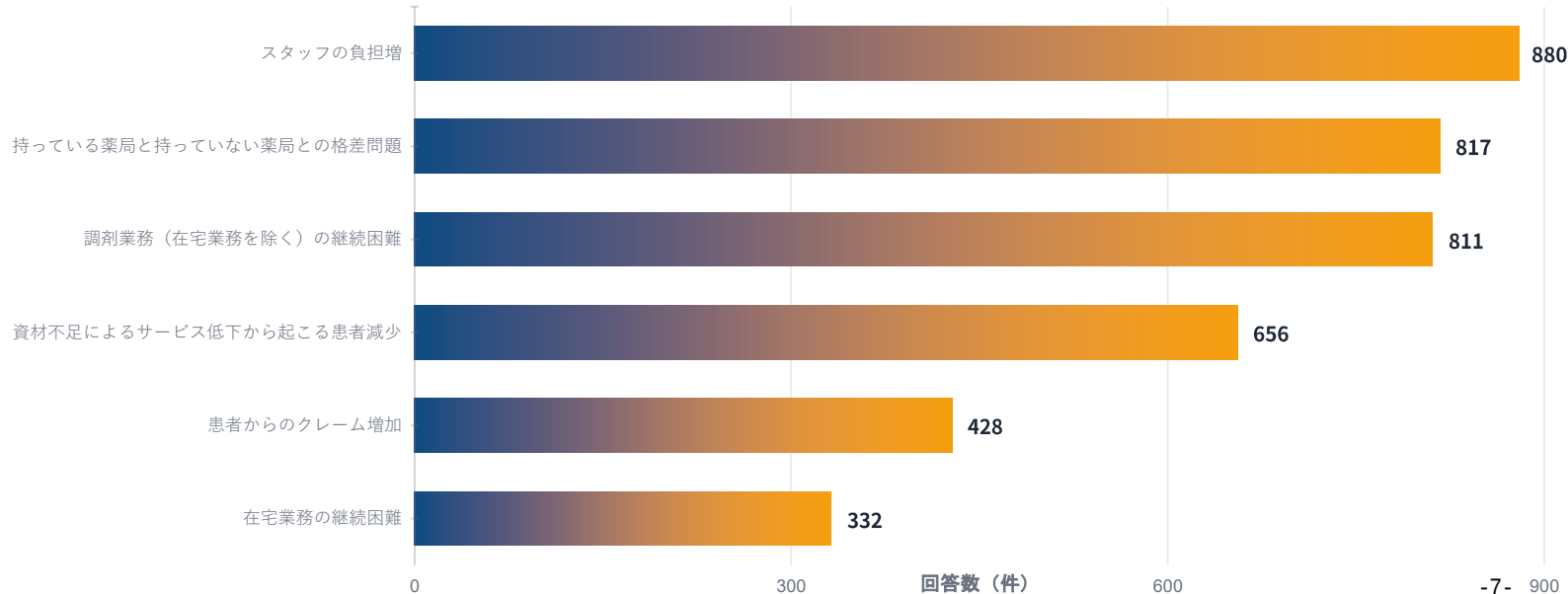
不安による体調悪化

148件（11.6%）

将来の薬局運営への強い不安が、健康負担として顕在化している深刻なシグナル。

今後の主な懸念

スタッフ負担増・格差問題・業務継続困難が三大懸念



Source: 調剤資材供給不安に関する緊急実態調査（複数回答）

自由記述から見える現場の声

容器再利用・衛生不安・説明負荷・患者離反懸念が浮かぶ

主な論点

- ・ 軟膏容器不足への対応変更が繰り返し言及
- ・ 患者説明と苦情対応の負担が増大
- ・ 再利用容器の衛生・安全面への不安
- ・ 在庫確認・調達・融通対応が常態化

報告上の含意

- ・ 現場負担は内部業務と患者対応の両面で拡大
- ・ 足元対応できても先行き不安が強い
- ・ 安定供給・公平配分・運用指針整備が必要
- ・ サービス低下と患者離反リスクが顕在化

自由記述では、資材不足が単なる調達問題にとどまらず、衛生管理・説明責任・薬局運営リスクへ波及していることが示された。